

会 議 録

会議名	平成27年度第1回小金井市児童館運営審議会		
事務局(担当課)	児童青少年課		
開催日時	平成27年7月17日(金) 午前9時30分～午前11時30分		
開催場所	小金井市役所 西庁舎第5会議室		
出席者	委員	橋本委員、吉田委員、関委員、新井委員、布目委員、佐藤委員、岩重委員、山田委員、中川委員	
	その他	(欠席：浦川委員)	
	事務局	佐久間子ども家庭部長兼児童青少年課長、田中係長、森主査、大嶋主査、前田主任、山田副主査、中村主事、東児童館(木下職員・高野職員)	
傍聴の可否	可	傍聴者数	3名
会議次第	<p>議題</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 開会</li> <li>2 委嘱状の伝達</li> <li>3 役員の選出について <ul style="list-style-type: none"> <li>会長</li> <li>会長職務代理者</li> </ul> </li> <li>4 会長あいさつ</li> <li>5 議題 <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 児童館事業について</li> <li>(2) 小金井市児童館運営審議会の今後の進め方について</li> <li>(3) その他</li> </ul> </li> <li>6 閉会</li> </ol>		
資料	<p>(事前配布資料)</p> <p>資料1 小金井市児童館運営基本方針／平成27年度小金井市児童館四館合同事業計画／平成27年度各児童館(市内4館)事業計画 等</p> <p>資料2 平成27年度児童館運営審議会委員名簿</p> <p>資料3 小金井市児童館条例</p> <p>資料4 小金井市児童館条例施行規則</p> <p>資料5 この一年のあゆみ(平成26年度)</p> <p>(当日配布物)</p> <p>児童館だより(市内4館分／平成27年8月号)</p>		
主な会議内容	<p>○ 役員の選出について</p> <p>委員間の互選により、橋本昭彦委員を児童館運営審議会長に、新井眞澄委員を会長職務代理に選出。</p> <p>○ 議題</p> <p>(1) 児童館事業について</p> <p>以下、各館担当者より資料の要点説明の後、各委員から行われた質問と</p>		

回答の要約。

質問①：配慮の必要な子どもへの対応について専門部署と連携しているか。(新井職務代理)

回答①：発達支援センターや子ども家庭支援センター、学校や民生・児童委員と連携を取り相互協力をしている。(本町児童館：大嶋)

質問②：父親、男性の参加について、子育てひろばの父親参加は増えているか。継続利用をどう働きかけているか。父親への広報で効果の大きいのは何か。(橋本会長・新井職務代理・中川委員)

回答②：1～2歳児の父親が増えている。ひろばスタッフは父親同士が話しやすい場作り等に取り組んでいる。家族連れで来る場合もある。乳幼児事業参加の母親への掲示・広報による母親の口コミ効果が大きい。(本町児童館：大嶋)

意見②：父親同士の交流を促す子育てひろばでの取組みは父親参加を促す面でも良い取組みだ。(橋本会長)

質問③：東児童館は子育てや健全育成関係の団体以外の方の協力が多いのか。常設子育てひろばをはじめ、利用者が多いことが地域の住民との関係作りに役立っているのか。食育関連事業における多くの協力農家は、同様に長年の東児童館と地域の関係によるものなのか。(新井職務代理・岩重委員)

回答③：利用者の保護者や青少年健全育成東部地区委員会や子ども会などの団体にも所属しているが、それ以外に個人としても協力してくれる方がいる。農家についても同様に長年の関係により協力いただいている。地域の住民との関係の継続が重要と考えている。(東児童館：木下・高野)

質問④：緑児童館で普段来館している子どもが夏期クラブに参加しない等、行事に参加しない子どもが出てきている理由について。(新井職務代理)

回答④：保育園入所児が増え、幼稚園についても3年保育が一般化しているため、結果、児童館の行事に関心を持っていない保護者が増えている。そのため、普段の放課後の自由来館での小学生の利用は増えているが、保護者の申し込みが必要な行事には参加しないケースが散見されるようになっている。(緑児童館：森主査)

意見④：皆で何かする、役を担うのが面倒という気質が子どもだけでなく保護者にも出てきていることも原因ではないか。子供会などでも参加率の面で難しい部分が出てきている。保護者への働きかけとして学童のおやじの会などにも協力をお願いするとか、新たな手段も検討すべきではないか。(新井職務代理・岩重委員・吉田委員・山田委員)

質問⑤：中・高校生は、乳幼児や小学生の頃から来館していた子が中心なのか、中・高校生になってから来る子どもが多いのか。ボランティアなども契機になるのか。(吉田委員・中川委員)

回答⑤：小学生からの継続だけでなく、その子に誘われて来た子、新規利用の子など、両方いる。貫井南児童館の場合、バンド室利用もある。

こきんちゃんのボランティアカードによる中学生のボランティア希望も多い。(貫井南児童館・緑児童館)

(2) 小金井市児童館運営審議会の今後の進め方について  
 <会議の進め方について>

回数が2年で6回程度と少ないので、委員間の問題の共有化を進めたい。また前期から引続く事項として、①就労する女性の増加の影響もあり、ボランティアのなり手が減少している。②児童館事業として評価できる事業でも、利用したい人のニーズにあっているか、児童館が確実に応えているのか、ということでの議論は堂々巡りになるが、どのように考えていくか。③過去の審議会の答申からまず民間委託1館目の取組みが出て東児童館を委託し、1館目は概ねうまくいったという評価をしてきているが、2館目を目指して大丈夫か、委託の狙いは成功しているのか、財政的な効果もあったのか等、審議会としても追加で考えておくべきことがある、という問題が出ていた。これらを引き続き検討したい。(橋本会長)

<資料要求に関して>

各館の利用者懇談会でどのような意見がでてきているのか、審議会でも個別の事業や同じ内容を審議する必要はないが、利用者の声を知りたいので、資料にできないか。(新井職務代理)

児童館行事の日程は、学校行事や放課後子ども教室行事等、どこまで調整しているか。また、どうすれば、どの程度まで配慮や調整、連携をすることが可能なのか。運営側の連携だけでなくサポート側の連携も含めてどうか。考える上での資料があるか。(布目委員/橋本会長)

資料要求については、次回、どういった内容を審議するか、あるいは議題にするのかということと関連して、会長・職務代理と事務局で調整をさせていただきたい。(佐久間部長)

(3) その他  
 次回日程は10月開催を予定。

佐久間部長

本日はお忙しい中、台風で悪天候の中お集まりいただきまして、まことにありがとうございます。

私、本年4月1日から子ども家庭部長を拝命いたしました佐久間と申します。どうぞよろしく願いいたします。

本来であれば、こちらの司会進行を務めさせていただきますのが、子ども家庭部の児童青少年課長、飯田と申しまして、やはり4月1日から着任させていただいてございますが、今ちょっと体調不良で休暇をいただいておりますことから、本日私が司会進行を務めさせていただくということでご了承いただきたいと思います。よろしく願いいたします。

なお、本審議会におきましては、会議録を作成のうえ、ホームページ等で会議録を公開させていただいてございます。その関係で、会議録作成のための録音をさせていただいておりますので、その点に関しまして、ご了承

	<p>承いいただきたいと思ひます。</p> <p>また本日、前原小学校長の浦川先生におかれましては、校務によりご欠席の旨、ご連絡をいただひているところでごひます。</p> <p>それでは、ただいまから平成27年度第1回小金井市児童館運営審議会を開催させていただきます。</p> <p>お手元の会議次第に沿ひまして進めさせていただきます。</p> <p>まず始めに、市長から委嘱状の伝達をさせていただきます。</p> <p>市長、よろしくお願ひいたします。</p>
稲葉市長	<p>委嘱状を伝達させていただきますので、よろしくお願ひいたします。</p> <p>&lt;委嘱状の伝達&gt;</p> <p>どうぞみなさん、よろしくお願ひいたします。</p>
佐久間部長	<p>委嘱が終了いたしましたので、ここで市長の稲葉よりご挨拶を申し上げます。市長、よろしくお願ひいたします。</p>
稲葉市長	<p>あらためまして、皆さんおはようございます。市長の稲葉でございます。</p> <p>本日は、大変お忙しい中、このような大変不安定なお天気の中にもかかわらず、ご出席をいただきましてありがとうございます。ただ今、児童館運営委員会委員の委嘱状を交付させていただきました。快くお受けをいただいたことに感謝を申し上げます。また、2年間の任期になるわけですが、この間、いろいろお世話になります、どうぞよろしくお願ひいたします。</p> <p>日頃、皆様方には、子育て支援や青少年の健全育成などのため、何かとご尽力・ご協力を賜っておりますことに、厚く御礼を申し上げます。</p> <p>本市で最初の児童館が設置されたのは、昭和41年5月、来年には50周年を迎えることとなります。以降、東児童館、貫井南児童館、緑児童館が設置され、地域の中での子育て支援や健全育成の拠点としての事業を展開しています。</p> <p>東児童館は、平成18年度から委託となり、現在まで2回にわたりプロポーザルの方式による選考を実施し、乳幼児の常設子育てひろばの設置、中・高校生事業の充実、開館時間の延長、専門相談の実施などが行われています。</p> <p>他の直営3館も、同様に事業の充実に務めており、身近にある乳幼児、親子の交流の場として、安全な小学生の遊び場として、中高生の居場所として、多様化するニーズに応えられるよう、切磋琢磨しているところでごひます。</p> <p>また、毎年8月に武蔵野公園くじら山で開催しております、わんぱく団や移動児童館わんぱく号のような自然体験に係る事業も継続してきております。児童館事業ではありませんが、本年6月から学芸大学と武蔵野公園くじら山での冒険遊び場等、健全育成事業を開始しており、緑豊かな本市の環境を生かした子どもの居場所づくりに取り組んでいるところでごひます。</p> <p>今後も児童館のあり方について、児童館運営審議会のご意見を踏まえな</p>

	<p>がら進めてまいりたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>簡単ではございますが、私の冒頭のあいさつとさせていただきます。2年間お世話になります、どうぞよろしくお願いいたします。</p>
佐久間部長	<p>申し訳ございませんが、市長は公務のため、ここで退席をさせていただきます。よろしくお願いいたします。</p>
稲葉市長	<p>申し訳ありません。これから議会ということで、私、ここで退席させていただきますけれども、今日の内容については担当のほうから報告をもらうことになっておりますので、よろしくお願いいたします。</p>
佐久間部長	<p>次に、会長と職務代理の決定をさせていただくところでございますが、今回は橋本委員、新井委員が3期目、浦川委員、佐藤委員、関委員、布目委員も、前期に引き続きお引き受けをいただきました。</p> <p>初対面の方もいらっしゃいますことから、恐縮でございますけれども、皆様に自己紹介をお願いしたいと存じます。後で資料のご説明は申し上げますが、資料の中で、「資料2」と右肩に書いてある1枚の紙がございます。資料の2でございます。委員名簿が書いてございます。</p> <p>こちらをご覧いただきながら、自己紹介の際に、ご自分のお名前の左側に番号を付けさせていただいてございますので、こちらの番号と名前を言っただけであれば分かりやすいと思っておりますので、申し訳ございませんが、そのような形でご紹介をさせていただきたいと思っております。</p> <p>それではすみません、橋本委員からお願いできますでしょうか。</p>
橋本委員	<p>皆さん、おはようございます。1番の橋本です。よろしくお願いいたします。</p> <p>私は、文部科学省の子会社のような研究所がありまして、その研究所で、研究官を務めています。元の専門は教育の歴史なのですが、ひょんなことから児童館の運営関係にも当たらせていただいています。</p> <p>今の専門は、政策の評価などが専門でありますので、ここで勉強させていただいたことを仕事にも生かさせていただこうと考えています。個人的には、子どもがさくら保育園、緑小学校、緑中学校、みどり学童保育所、ひととお世話になっておりまして、大変、小金井市にはいろいろご恩があり、近隣の方も、住民の仲間の方にも、お世話になっております。よろしくお願いいたします。</p>
佐久間部長	<p>よろしくお願いいたします。では、新井委員。</p>
新井委員	<p>おはようございます。4番、新井眞澄と申します。よろしくお願いいたします。</p> <p>私は、民生委員、皆さん民生委員って年寄りばかり扱っているんじゃないかと思われるのですが、実は佐久間部長が、その前のわれわれの所属のしているところの部長でした。</p> <p>民生児童委員という名前がついているんですね。それでお年寄りも子どもたちも見ましようということでやっております、私も橋本先生のように、ひょんなところから民生委員を委託されまして、今、小金井市の民生委員には、3つの地区委員会があるんですけど、そのうちの会長会に属してまして、これで3期目です。4年やらせていただきまして、前の期の反省会のときに、ちょっと出尽くしたというようなことも申し上げたんで</p>

	すけど、また気持ちを新たにして違う切り口でまたこの児童館の運営審議会のところに話をさせていただきたいと思ひまして、お引き受けさせていただきますので、どうぞよろしくお願ひいたします。
関委員	3番の関和子です。小金井市子ども会育成連合会から来ました。5月の定期総会でジュニアリーダー担当から書記に変わりました。子どもは、小金井第四小学校と小金井第一中学校を出ています。男の子ばかりいます。今、高校生と浪人生です。よろしくお願ひいたします。
布目委員	おはようございます。5番の布目と申します。私も新井さん同様、民生児童委員のほうから出させていただきました。 私は、民生児童委員の仕事の中で、皆様と利用者側とのパイプ役というのが主な仕事ですけれども、われわれ自身のスキルアップということで、いろいろな福祉関係について学ぶ5つの専門部会というものがございまして、たまたま私はその中の、今回、子育て支援部会というものの部長をさせていただいているものですから、子育て支援についてはいろいろと皆様からご意見などを伺いながら、自分の民生委員のほうの仕事にも生かしていけたらと思ひて頑張っております。どうぞよろしくお願ひいたします。
吉田委員	2番の吉田路子です。今回、初めてになります。どうぞよろしくお願ひいたします。子どもは3人おひまして、今、小・中・大です。緑児童館、緑小、緑中にお世話になりまして、緑児童館の幼児グループには7年、緑小には13年、ただ今緑中9年目を更新しております。長い間緑町界隈でお世話になっております。それもありまして、児童館の企画とか、そのときの保育のお手伝いとか、企画自体にも運営にも携わらせていただいております。また勉強させていただきたいと思ひますので、どうぞよろしくお願ひいたします。
中川委員	おはようございます。10番、中川久美子です。私は、今子どもが3人いて、本町小、一中、あと高校生がおひります。上と下が8歳違うので、結構長い期間、本町児童館のほうにもお世話になっておひまして、乳幼児のころからずっとお世話になっていました。今もまだ小学生が、もう毎日のように児童館に通わせていただひいて、お世話になっております。よろしくお願ひいたします。
山田委員	おはようございます。9番の山田久美子です。子どもが2人いて、今、前原小学校の1年生と2年生です。家は貫井なので、貫井児童館に小さいときに行っていたのですが、今回知り合ひからこんなのがあるよというので、紹介されて応募しました。よろしくお願ひいたします。
岩重委員	おはようございます。8番の岩重深雪です。長男が東中の2年生、長女が東小の5年生、次男が東小の2年生で、主に東児童館を利用させていただいております。よろしくお願ひいたします。
佐藤委員	7番の佐藤玲子でございます。小金井市の中学校長会の代表でまいりました。去年から引き続いて2年目になります。小金井は、平成21年から二中の副校長をし、1年空ひいて6年目になります。東児童館には、うちの東中の生徒がお世話になり、それから、ボランティアとしてもいろいろな

	仕事をさせていただいております。今後ともよろしくお願ひしたいと思ひます。
事務局（田中）	おはようございます。児童青少年係長の田中と申します。よろしくお願ひいたします。
事務局（森）	緑児童館主査の森と申します。よろしくお願ひいたします。
事務局（大嶋）	本町児童館主査の大嶋と申します。よろしくお願ひいたします。
事務局（山田）	貫井南児童館の山田と申します。よろしくお願ひいたします。
事務局（木下）	この4月から東児童館のマネージャーをさせていただいております木下と申します。よろしくお願ひいたします。
事務局（高野）	東児童館の高野と申します。よろしくお願ひいたします。
事務局（前田）	児童青少年係の前田といいます。よろしくお願ひいたします。
事務局（中村）	同じく、児童青少年係の中村と申します。よろしくお願ひいたします。
佐久間部長	自己紹介が終わりました。それでは、議事に入らせていただきます。 3番の「役員を選出について」というところにかかせていただきます。その前にお断りがございまして、会議録につきましては、録音しました後、業者に会議録作成を依頼してございます。会議録ができましたら、皆様に校正案を郵送で確認のために送らせていただき、その後正式な会議録として公開をいたしますので、ご了承を賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。 それでは、審議会の会長の選出でございまして、また資料のほうにいきまして、次の資料の3がございまして、A4、1枚の両面の紙でございまして、その資料3の裏面に、こちら、小金井市児童館条例でございまして、第16条第2項に選出の関係が書いてございまして、ここでは「会長は委員の互選による」と定めてございまして、互選の方法につきましては、いかがいたしまししょうか。どなたか。
	（「指名推薦でお願いいたします」の声あり）
佐久間部長	指名推薦というご発言がございましたが、それでよろしいでしょうか。ご異議がございませぬので、指名推薦ということでお願ひしたいと思ひます。どなたか、ご推薦をいただければと思ひますけれども、どなたかいらっしゃいますでしょうか。関委員、お願いいたします。
関委員	前期からの議論の経過もありますので、前期に会長を務めていただいた橋本先生にお願ひしたいと思ひます。引き続き広い視野をもって、会を進行していただけるのではないかとと思ひます。
佐久間部長	ありがとうございます。 ただ今、関委員のほうから橋本委員を会長にとのお声がございました。橋本委員を会長に選出させていただくことで、ご異議はございませぬでしょうか。
	（「異議なし」の声あり）
佐久間部長	ありがとうございます。ご異議なしということでございますので、橋本委員を会長に決定いたしました。次に、同じく児童館条例第16条の第4項の規程によりますと、「職務代理を選出すること」となっております。

	会長の指名する委員と定めてございますので、会長からご指名をいただきたいと思っております。よろしいでしょうか。
橋本会長	では、前期に職務代理を務めてくださいました新井委員にお願いしたいと思っております。よろしくお願いいたします。
新井委員	はい。
佐久間部長	では、会長のご指名でございますので、職務代理者は新井委員に決定をいたしました。よろしくお願いいたします。それでは、役員を選出が終わりまして、会長と職務代理の方に、一言ずつごあいさつを賜りたいと思っております。ごあいさつをこの場でいただいてから、席を移動させていただきますので、あらためまして会長のほうからごあいさつをいただけますでしょうか。
橋本会長	橋本です。よろしくお願いいたします。前期もこの委員を務めさせていただいて、代表を務めさせていただいておりました。私は仕事柄、評価ということをしてしておりますが、評価というのは、事実特定プラス価値判断だという説がありまして、価値判断の前にきちんと事実特定をすることで、いろいろな事実をきちんと明らかにして、この議事録にも載せて、市民の方に評価の様子が伝わり、将来への選択をしていただけるように、特に運営を心がけたいと思っておりますので、皆さんから活発な発言をお願いしたいと思っております。また、事務局の皆様にも、いろいろ説明などでお世話になると思っておりますし、バックアップをよろしくお願いいたします。
佐久間部長	ありがとうございました。それでは、新井職務代理のごあいさつをいただきたいと思っております。
新井職務代理	ただ今、ご指名をいただきました新井でございます。よろしくお願いいたします。私もこれで3期目になるので、まる4年やらせていただいております。橋本委員は、大変うまく会議を進めていただいておりますので、私の出る幕はないと思っておりますけれども。あと、事務局、児童館の各責任者の方々も、大変丁寧な説明をしていただいております。なかなかその中からまた新しいものを発掘するというのは、大変なことですけれども、ぜひ新しい児童館を探していくことに努めて続けていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。
佐久間部長	よろしくお願いいたします。ありがとうございました。会長が決まりましたので、ここからの進行につきましては会長にお願いするところでございますが、その前に1つだけ、お諮りをさせていただきたいことがございます。小金井市青少年問題協議会という市長の附属機関の協議会がございまして、その委員といたしまして、本児童館運営審議会から1人ご推薦いただくことになっておりまして、これまでも会長にお願いしておりましたが、今回もそのようにさせていただいて、皆様、よろしいでしょうか。ご異議はございませんか。
	(「異議なし」の声あり)
佐久間部長	ではよろしくお願いいたします。ご異議なしということでございますので、推薦の手続きをさせていただきます。よろしくお願いいたします。私



	<p>の進行にご協力いただきましてありがとうございました。それでは、議事の進行につきまして、会長、よろしく願いいたします。</p>
橋本会長	<p>では、あらためましてよろしく願いいたします。</p> <p>議事に入る前に、2点ほど確認をさせていただきたいことがありまして、われわれが会議をするときに会議録というものができまして、これが市のホームページなどに載るわけです。形式のご相談ですけれども、前期の審議会では、最初に1日の話の要約があって、その後にこういう発言があったという形で議事録ができるのですが、皆さん特にご異議がなければ、今期もそのようにさせていただきたいと思っております。よろしいでしょうか。これは先ほどご説明がありましたように、あらかじめチェックの確認のご連絡が行きますので、修正、校正などしていただいたうえで確定をさせていただきたいということです。</p> <p>それから2点目ですが、この審議会では、傍聴の方に来ていただけるようにということで、そのような規程にしておりますが、傍聴の方に感想メモというものを、こういう紙を1枚、何も書いていない用紙を配らせていただきまして、それでいろいろと書いてくださいと。今日も傍聴の方が来てくださっていますが、感想や意見を書いていただいて、あとでそれが委員の皆さんにコピーが回るという仕組みで、傍聴の方がお感じになったようなことが我々委員に来るようにということで、前は決めさせていただいておりました。</p> <p>今回もそういうふうをお願いしたいと思っておりますので、皆さん、ご異議がなければ今期もそのようにさせていただきたいと思っております。よろしいでしょうか。ありがとうございました。それでは傍聴感想メモは、今日は紙がありますか。</p>
事務局（田中）	<p>ご用意してございます。</p>
橋本会長	<p>では、今日もさっそく傍聴メモを配っていただいて、ご意見をいただければと思います。それでは、まず資料をあらかじめ配付、送付されたものがあると思うのですが、この資料についての説明を、事務局からお願いいたします。</p>
事務局（田中）	<p>それでは資料の確認をさせていただきます。</p> <p>次第以外につきましては、事前にお送りさせていただいたもので、本日もご持参いただけるようお願いをしていたものでございます。</p> <p>資料1、小金井市児童館運営基本方針。平成27年度小金井市児童館4館合同事業計画、平成27年度の各児童館、市内4館でございます、その事業計画等を全てまとめたものでございますが、ホチキス留めになっているものが1部ということになってございます。</p> <p>資料2、3につきましては、先ほど、もうすでにご確認をいただいているかと思うのですが、平成27年度児童館運営審議会委員名簿、小金井市児童館条例になってございます。</p> <p>資料4、小金井市児童館条例施行規則、資料5のほうが「この一年のあゆみ（平成26年度版）」になってございます。</p>

	<p>それと本日、机上に8月の児童館だよりを参考として置かせていただいておりますので、合わせてご確認ください。</p> <p>なお、資料1につきましては、平成26年度第3回の審議会で配付した資料と同一内容となっております。ご不足等ございましたら、お申し出いただければと思います。以上です。</p>
橋本会長	<p>ありがとうございました。足りない資料などありましたら、お申し出ください。大丈夫でしょうか。</p> <p>では本日の議題ですが、議題の1は、「児童館事業について」ということで、事務局からご説明をいただきます。またご質問がありましたら、後でお願いしたいと思います。それでは、事務局、説明をお願いいたします。</p>
事務局（森）	<p>緑児童館の森です。よろしくお願いいたします。</p> <p>事前送付させていただいた資料を元に、小金井市児童館の基本方針および平成27年度の事業計画について、合同事業計画から本町児童館、東児童館、貫井南児童館、緑児童館という順にご説明をさせていただきます。</p> <p>さらに、このホチキス留めの資料とは別にオレンジ色の「この一年のあゆみ 平成26年度」という資料があると思いますが、こちらが昨年度の事業のまとめとなっております。このまとめにある内容を含みながら、このような形で昨年度は終わったので、平成27年度については、この辺について留意しながら事業をやっているという説明になりますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>事前に送付させていただいている関係で、読んでいただいているということをご説明をさせていただきますので、かなり簡略化した説明になるかとは思いますが、その後、ご質問等ありましたら、ご遠慮なくいただければと思います。よろしくお願いいたします。</p> <p>ホチキス留めの資料1「小金井市児童館運営基本方針」というものから入らせていただきます。これについては、前文の3行目だけ読ませさせていただきます。</p> <p>「児童館は、子ども一人一人が安全な環境の中で遊びを通して仲間とのかかわりの中で育つ、子どもの健全な成長を願う地域の人たちが手をつないだ地域の子育て、子育て、健全育成の拠点として、『のびゆくこどもプラン 小金井』（小金井市次世代育成支援行動計画）、『児童館ガイドライン』（平成23年3月31日 厚生労働省策定）に即し、以下のことを柱として児童館運営基本方針とします」となっております。</p> <p>以下、「子育てひろば事業として、乳幼児の保護者に対して施策の充実」、「小学生に対する事業の充実」さらに、次のページになりますが、「居場所づくりを中心とした中・高校生世代に対しての施策の充実」、そして、「相談事業及び子どもの問題に対しての地域や関係機関との連携した取り組み」と、この4つの、児童の対象年齢に合わせた事業及び地域との連携を柱として、各児童館で事業を策定、実施しているというふうに理解していただければと思います。</p> <p>運営基本方針については、毎年ではないのですが、国や市の子どもや子</p>

	<p>育てに関係する施策や法令の策定、改訂等、必要に応じて改訂を重ねています。このところは、平成24年4月1日が最後になっておりますので、3年ほど変わっていないとご理解いただければと思います。</p> <p>引き続き私のほうで説明をさせていただきます。「平成27年度小金井市児童館四館合同事業計画」は、「合同事業計画」となっております。共通の計画という、各児童館で実施している事業共通の項目ではなくて、4館から職員を担当者として出し合同で行っている事業についての説明になります。</p> <p>子育てひろばについては、各児童館で多少の事業的な差はありますが、同じようにひろば事業を行っている子ども家庭支援センターも交えて年間2回くらい会議を行って、ひろばで起きている問題点について話し合い、連携できるところは連携しています。</p> <p>次に、小学生に対する施策ですが、大きく分けて3つあります。1つは、「移動児童館わんぱく号」で、武蔵野公園くじら山で月に1回、年間で10回、児童館庁用車の「わんぱく号」で野外体験活動を行っております。今年度については、貫井南児童館と本町児童館が担当しております。</p> <p>それから、あと1カ月ぐらいすると始まるのですが、毎年8月、同じく武蔵野公園くじら山で行っています、「わんぱく団」という1週間の野外体験活動があります。</p> <p>さらに、今年度実施しますと6回目になる、「小金井市子どもの権利に関する条例」にある子どもたちの意見表明を生かし、各児童館で子どもたちが企画準備をし、当日も子どもたちが運営するイベント「小金井市児童館フェスティバル2015」というのを実施する予定になっております。</p> <p>昨年度は、小金井市児童館フェスティバル2014ですが、この名前になってから今回で3回目になります。今のところ予定しているのは、昨年度同様に各児童館で子ども会議を開き、そこで決まった各児童館のゲームコーナーや展示を各児童館ごとに出店することと、舞台上でダンスや音楽を披露することです。当日は小金井第三小学校の体育館をお借りして、10月31日の土曜日に実施する予定です。</p> <p>また、細かい内容についてご質問があれば、お答えいたします。</p> <p>以下、「中・高生の世代に対する施策」その他というふうになっております。よろしく願いいたします。</p> <p>それでは、各児童館から、今年度の事業計画を昨年度の報告を絡めながらご説明したいと思っておりますので、よろしく願いいたします。</p>
橋本会長	<p>各児童館の事業計画を説明していただく前に、今、冒頭に合同の事業計画等について森主査のほうからご説明いただいたことに対して、何かご質問はありますか。</p> <p>あればまた後でも結構ですが、よろしければ、具体的に各児童館の事業計画の説明に入らせていただきます。</p> <p>私の個人的な意見でもありますが、委員の仕事というのは、大部分はこの報告をうかがって、それで意見をいうという形のことですが、</p>

	<p>実際には、意見まではいなくても、いい質問をしたら、それが議事録に載りますので、それは市民にシェアされることになります。</p> <p>そういう観点からこの事業計画を見ていただき、また全体的に市の児童館としてこうあるべきではないか、という4館の事業計画を超えたご意見もあろうかと思っておりますので、そういうことも意見交換のところで言ういただければ、それもまた議事録に載るということで、かなり議事録を意識した運営をさせていただきます。</p> <p>それでは各児童館の事業計画のご説明をお願いしたいと思います。</p> <p>本町児童館から、大嶋先生、お願いいたします。</p>
事務局 (大嶋)	<p>本町児童館、大嶋です。</p> <p>「この一年のあゆみ」10ページに、「26年度本町児童館のこの1年」として報告があります。昨年度の中から新たにやったもの、また実績が上がったものを、今年度に取り入れてやっていく形になりますので、特に効果のあったものということで、お伝えしたいと思います。</p> <p>1の「乳幼児と保護者に対する事業」で、父親に子育てひろばに参加してもらうため、「お父さんとあそぼう」という事業を年3回ほど実施いたしました。おはなし劇場「リズム遊び講座」、「ベビーマッサージ講座」を行いましたところ、毎回の人数が5組とか10組以内と、それほど多くはなかったんですけども、だんだんお父さんも児童館に、土曜日に事業があれば来てもいいんだという雰囲気は定着してきました。</p> <p>これをさらに発展させた形で、27年度は、だいたい毎月1回ずつ実施できるようにしました。</p> <p>「学童ひろば事業」は、昨年まで「たけとんぼひろば」は本町児童館の出張ひろばとして担当だったのですけれども、400人以上の親子の増加がありました。27年度からは、直接、学童保育所の事業でスタートすることになりまして、9年間、出張事業で学童ひろばを行ってききましたので、その努力が認められた形でもあり、よかったと思っています。</p> <p>幼児グループですが、参加者が非常に増えまして、細かなケアをしていたことが出席率の増加になったと思うので、産休明けのお母さんや下の子連れの大変な親子に対して、今後も声かけ等を行っていききたいと思います。</p> <p>2年目となった幼児対象行事「わんぱくキッズあつまれ」は、今、ボランティアのお母さん方の応募が少ないので、幼稚園のお母様方で、ウクレレバンドのチームがありまして、そこが主演になったウクレレコンサートの後、おやつ作りや水遊びなどを行い、演奏とおやつ作りをセットしたような新たな形で行事をやり、非常に良い形で進んでおります。</p> <p>昨年からはじめた2階図書室の配置を変えた「乳幼児優先室」の設置は、乳幼児の親子がひろば事業の時間以外に来たときに、部屋を用意しますが、昨年で216組、478人の利用がありまして、まだ常設ひろばまではいかないですけれども、急にきた親子に遊べるお部屋を提供できる、ということで、すごく利用がありました。</p>

特に、土曜日にお父さん方が来ることで、さらに、おじいちゃん・おばあちゃん連れの家族もお弁当を食べていたり、フリーなお部屋がいつも用意できるということで、利用が増えて良かったと思っています。

次に2の、「小学生に対する事業」です。「みんなでバスケット大会」という異年齢の球技大会をやりまして、室内バスケのゴールが2つあるので、子どもたちも皆すごく上手になりまして、クラブチームに入るような子も出てきましたので、また球技大会として続けいきたいと思っています。

あと卓球スクールというのが、昨年度より市の卓球連盟の方をお願いしまして、月1回指導に来ていただいている、これもかなり子どもたちが上達してきてまして、一中に入って即、1年生でも選手になるような子どもたちが育ってきました。昨年は6年生で、わんぱくに手焼いていたのですが、卓球に目が向いてくれて、一生懸命練習して、悪さをする暇もないほど一生懸命遊んでくれるようになったので、スポーツはすごく効果があつて良かったと思っています。

併設の学童保育が2階にありまして、今、子どもたちの数がすごく多いのですけれども、土曜日にしか学童のお休みがないので、土曜日に児童館へ一般来館の子と遊びに来る姿がすごく増えてきてまして、学童の子と一般来館の子が遊べて、非常にいいことだと思っています。あと、11月の4館合同行事のフェスティバルにも、6年生女子たちが自分たちでダンスチームを自主的に作って、練習して、本番に出られましたので、これも良かったと思っています。

3点目、中・高校世代に対する事業ということで、やはり土曜日ですとか、開館時間延長の5時以降に来ることが多いのですけれども、来たときに、何気ないおしゃべりの中で家庭のことの相談を話す子もいるので、丁寧に対応しています。

高校生は、高校1年の男子グループが、土曜日に多く来ていてまして、学校と家庭と、もう一つ行ける第3の場所ということで児童館が定着してきてまして、中学を卒業しても地元の友達と仲良く交流できる場所ということで、大事なポジションになっているのではないかと思います。

夏休みの子育てひろば事業には、近隣の高校のボランティア部の男女7人を含めて、全部で9人が来てくれまして、異世代交流ということで、事前に説明会もし、指導して、小さな0～1歳のお子さんとお母さんと交流できたので、すごく効果があつて良かったと思います。

4番の「地域や関係機関との連携した取り組み」ということで、東京学芸大学が近かったり、武蔵野美術大学も近隣にありまして、そこでいろんな学生やサークルが指導に来てくれたり、行事を手伝ってくれています。特に、学芸大の美術専攻学生による「あそびや」という造形活動を、場所を提供して一緒に何度か試みたのですけれども、昨年度は18回48人のお子さんが参加してくれまして、来たときにいろいろなものを作ったり、自由遊びのできる空間を作ることができました。

学生たちの学業やサークル活動のための場にもなり、良かったと思って

	<p>います。</p> <p>読書推進活動としては、大きな絵本を作っている「ひまわり会」というサークルがあるのですが、そこに協力をいただき、大きな絵本の読み聞かせの行事を11月より実施しました。26年は、そういった形で事業を拡大できました。</p> <p>次に「27年度本町児童館事業計画」ですが、今回取り入れて発展させたものとしまして、1「乳幼児と保護者に対する事業」のところで、自由遊びのできる「乳幼児優先室」の充実をしていきたいと思います。</p> <p>読書推進活動として、ブックスタートサークルというのが保健センターなどで活動されているのですが、そこに年2回ほど来ていただいて、初めて赤ちゃんが会う絵本ということで、お母様方に読み聞かせ等の指導をしてもらっております。</p> <p>父親の子育て支援をする事業で、先ほども言いましたように、月1回、今年は土曜日の午前中やっております。そこで、お父さんが子どもと遊ぶような活動、お母さんも一緒に来てお父さんが気後れしないようにサポートしていただく取組みをしています。</p> <p>あと、「わんぱくキッズあつまれ」も、幼稚園世代のお母さん方が中心になって、スタッフと参加の協力をしてくれています。</p> <p>2点目、「小学生に対する事業」ということで、今回は四館合同事業に向けてダンスチームを育成するというので、今から募集をかけております。</p> <p>あとは、大学生に入ってもらって、いろいろ行事を組んでおります。あとは、夏休みの「夏期クラブ」という事業で、多摩科学技術高校から11人、ボランティア部から来てくれることになりましたので、連携して高校生のボランティアの活動を充実していきたいと思います。</p> <p>「相談事業および子どもの問題に対しての地域や関係機関との連携した取り組み」ということで、配慮の必要なお子さん、また家庭と、支援の必要な子どもも結構来ておまして、ソーシャルワーク実践ということで、研修をしながら丁寧に対応していきたいと思います。以上です。</p>
橋本会長	<p>ありがとうございました。今の大嶋先生のご説明、あゆみのほうと事業計画のほうと両方ご説明いただいたと思いますが、何かご質問があればお願いいたします。新井さん、お願いします。</p>
新井職務代理	<p>最後にご説明していただいた配慮の必要な子どもに対しての手だてですけれども、この辺は子ども家庭支援センター等の協力をやっていかないと、なかなかうまくいかないんじゃないのかなと思っているんですけども、その辺で両方でやられても、難しい問題が含まれているんじゃないかなと思うんですけども、いかがなんでしょうか。</p> <p>児童館だけで対応するというのは、結構きつい話なんじゃないかなと思うんですけども。</p>
橋本会長	<p>大嶋先生、いかがですか。</p>
事務局(大嶋)	<p>もちろん連携ということで、きらりとか子ども家庭支援センターとか、学校や民生・児童委員と連携を取りながら、アドバイスをいただいたり、</p>

	相互協力をしながら、進めていくようにしています。
橋本会長	よろしいですか。ほかに何かご質問はありますか。ご意見でも結構です。一つだけ、お父さんの参加が増えているという、うれしいご報告があったのですが、これは何か要因というか、理由というか、何かあれば。それからお父さんというのは、どの層のお父さんたちなのか。補足していただけますか。
事務局（大嶋）	0、1、2歳児を対象の「お父さんとあそぼう」なので、その対象のお子さんとお父さんが多いです。0、1、2歳ぐらいまでです。来る機会が増えるので、ほかの土曜日とかフリーな日も、遊びに行っていいたと分かってきたので、来る回数が増えてきたと思います。
橋本会長	リピーターのお父さんは出てきていますか。
事務局（大嶋）	はい。毎月楽しみにしている、お父さんと子どもで来てくれる家族もあります。
橋本会長	分かりました。ありがとうございます。
新井職務代理	新井です。私も1回、0歳児の本町児童館を観に行ったことがあるんですが、外国人のお父さんがお子さんを連れてきていて、それで「ああ、外国人もくるんだな」と思ったんです。その中で、お父さんとお子さんが遊んでいるのだけど、お父さんとお父さん同士というのは会話しますか。
事務局（大嶋）	今、ひろばスタッフも一緒に入っているので、お父さん同士でもうまく会話できるようにもっていく遊びを、例えば布遊びですとか、みんなで何かを回したりして必然的に会話ができるようなゲームを入れて、また簡単な自己紹介など、自由遊び以外に、後半に、そういったみんなで遊ぶ時間を15分程度、設けているので、そこで交流できて会話が少し増えているようです。
橋本会長	そうですね、お父さんの教育がよいですね。佐藤先生も笑っているけども、本当に、お母さん同士というのは会話がすぐ弾む。つまり子育ての会話というのは進んでいるので。 本当に子育ての会話というのをお父さん同士でしているか。それが出来たら素晴らしいと思うのだけれども。ぜひ、そういうふうに通機づけしてあげてもらえると、大人教育も児童館でできるとは素晴らしいことではないかと思います。よろしく願いいたします。ありがとうございました。どうぞ、中川さん。
中川委員	お父さん事業で、お父さんたちはどういう形で集まってくるんですか。何かお母さんの口コミでしょうか。それとも……。
事務局（大嶋）	月、水、木のつどいの際にポスターを貼っておきまして、お母さんと、児童館だより等にも書いてあるので、お母さん方が「お父さんを連れてきていいんですね」とわかる。ほとんど口コミで、あとは市報を見ていらっしゃる場合があります。あとはホームページです。
中川委員	では、もしかしたらお父さんつながりのお父さんも一緒にいらっしゃるということもあると。
事務局（大嶋）	そうですね。可能性はあります。

橋本会長	<p>ありがとうございました。前期からの父親、男性の参加というのは話題にはなっていたんですけど、なかなか、まだどう意見を言ったらいいというのが分からないという状態・実態でしたので、また引き続き話を聞きたいと思いますので、よろしくお願ひします。</p> <p>何かありますか、ほかに。また、一番後でも質問の時間をとれると思っていますので、あればまたあらためて。では、大嶋先生、ありがとうございました。</p> <p>次に、順番では東児童館ですね。木下先生からよろしいですか。お願ひいたします。</p>
事務局 (木下)	<p>木下です。よろしくお願ひします。</p> <p>それでは、26年度と27年度の文書を比べていただいて、先ほどのお話のように、26年度の経過報告をさせながら、27年度に向けてと考えておりますので、よろしくお願ひいたします。</p> <p>この「一年のあゆみ」の14ページのところから、東児童館のこの1年。恐れ入りますが、1カ所訂正を入れさせていただきたいと思います。14ページ10行目、「乳幼児と保護者に対する事業」の最初の部分に、子育てひろばは、「登録者が前年度よりも増え」とございますけども、恐れ入りますが、ここの「登録者」を「利用者」という文字に訂正をお願ひいたします。</p> <p>それから、訂正のついでにここの部分の説明を簡単にさせていただきますと、東児童館では、常連の多かった中3が高校1年になったという事情もあり、中学生を除いた全ての年代で、利用者が昨年度より増えています。</p> <p>その理由といたしましては、ほかの3館と同様だと思うんですけども、各行事の内容や日々のいろいろな工夫がうまくいっているということと、近隣の小学校、中学校に毎月の「じどうかんだより」の配布をお願ひしているんですけど、それらの広報の成果だと思っております。</p> <p>ではあらためて、乳幼児世代の説明から進めていきます。</p> <p>子育てひろばでは、親子の利用者数が約900人、この1年間で増して、26年度1万人を超えております。大人数により混み合ったときは、職員がより注意を払って、利用者さんの安全を第一に見守っているところでございます。</p> <p>親子の利用者のうち、幼児グループの2歳児グループでは、双子のお子さんもおみえになりまして、だいたい30から35人程度の親御さんですけども、母親同士が互いに見守りながら活動をしています。それから、3歳児グループでは、単独での受け入れがこの東児童館だけだったためか、市内全域からの参加がありました。</p> <p>次に移ります。幼児グループ対象のセミナーでは、近隣農家のご協力をいただいて、親と一緒に収穫した大根を使った大根もちづくりや、食育講座の一環としての料理教室を行いました。どちらも参加者の方々からは貴重な体験ができたと思ひを多数いただきまして、非常に好評だったと思ひます。</p>



また6月には、近隣の農家のご協力をいただいてジャガイモ掘りを、それから7月には竹をいただいて、七夕飾りを楽しみました。地域の農家さんとの貴重な交流の機会だと思って、これからも大事にしていきたいと思っています。

その次に移ります。「おとうさんもいっしょ」という父親参加事業は25年度から正式に立ち上げているんですけども、25年度から26年度に向けて50人ほど、それから、3歳、4歳、5歳、6歳、「おいでよ！3・4・5・6（サシゴロー）」の年齢対象には、250人ほどの増加がありました。

昨年の反省を生かして、幼稚園の長期休暇中に4日連続で行った影響もあって、居場所ができてうれしかったという声をいただきました。行事として初めて児童館を利用する幼稚園世代の親子も多かったためでしょうか。小学校入学に向けての児童館のPRにもなっているのではないかなと、今後に期待したいと思っています。

次、小学生の説明ですけども、低学年グループは、昨年が続いて大変な人気で、抽選での参加となりました。高学年も途中から参加人数が増えたため、2グループに26年度では分けております。遠足、料理、工作など多数のボランティアの方々のお力添えをいただいて、非常に充実した活動内容だったと思います。

去年は空調施設の工事が数カ月にわたってあり、その関係で、焼きいも祭りも11月から動かしまして1月に行っております。

高齢者施設「のがわ」という施設があるんですけども、その施設の皆さんにもおいでいただいて、一緒に焼きいも作りをしたり、食べていただいてですね、お年寄り子ども達とで世代を超えた交流が図れたと思っております。ちなみに小学生の自由来館者数は、1日平均50人で、多いときには70人の来館者をいただいております。

中・高校生世代に移ります。中・高校生世代に関しては、毎週水曜日、18時から20時までの2時間のみ、中・高校生世代対象の時間「ぷれいすH I G A J I」を用意しています。10人程度の参加をもらい、講師を迎えて菓子作りとかパン作りなどはなかなか好評で、明るく楽しい雰囲気の中に進められました。それから参加者の中には、ボランティアとして、その水曜日以外の時間にも児童館に遊びにきてくれて、小学生と一緒に遊んでもらったりですね、あるいは各行事の、あるいは夏期クラブのリーダー役をかって出してくれるなど、児童館の活動に積極的に参加をしてくれているお子さんもいます。

次に移ります。中・高生世代の2つ、去年も行った企画ですが「とびだせ！中高生」という、1つは奥多摩の遠足ですけども、彼ら自身で企画を行って、川の水量を調べたり、旅のしおりも彼ら自身でつくったりしました。

それから、たまたまご縁があったんですけども、首都圏の中・高校生が企画から運営までを行います青春祭というものに、たまたま貫井南児童館の中・高校生とともに参加することができまして、われわれ東児童館のほ

	<p>うでは、ゲームのブースを担当して、それから全体の青春祭の中の、これはたぶん大きな目玉になったんじゃないかと思うんですけども、フラッシュモブというパフォーマンスにも参加できて、他の地区の中・高校生との交流を深めることができたようです。</p> <p>日頃ボランティアとして、主にサポート側の役割の多い中・高校生ですけども、この青春祭では、自分たちが主役としてイベントに参加できたことがとても大きな収穫になったように思います。今後ともこのような大きな催し物への参加など、彼ら自身が挑戦できる機会を用意することで、彼らの成長のきっかけを与えたいとわれわれは考えております。</p> <p>次に、地域や関係機関との連携ですが、「東児童館運営会議」というものがありまして、そこにおいて夏期クラブで、去年は抽選で落ちてしまった子を何らかの形で参加してもらえないかと話し合いを重ねた結果、子ども会のご協力をいただいて、去年は夏期クラブの4日目の夜に行われましたナイトハイクのチェックポイントの一つを、落選した子どもたちをも巻き込んでのお化け屋敷にすることができました。その結果、より多くの子どもたちが楽しめるイベントになったのではないかと考えております。</p> <p>最後になります。今お話がありました、私たちの所も特別支援学級の児童や、それから注意欠陥、多動性障がい、いわゆるADHDを抱えながらも、頑張って普通学級に通う児童の児童館利用も増加しております。彼らの個性に合わせつつ、彼ら自身や他の利用者の安全に配慮した対応を、保護者や学校の担任との話し合いも継続して行いながら、模索しているところです。</p> <p>簡単ではございましたけれども、以上、東児童館の報告でございました。よろしくお願いいたします。</p>
橋本会長	<p>ありがとうございました。何かここまで質問はありませんか。新井さん、お願いします。</p>
新井職務代理	<p>新井です。東は地域の方たちというか、グループを組んでいない方たちも結構いろいろ協力して参加してくださっているような感じを紙面から受けるのですけども、そうでしょうか。</p>
事務局(木下)	<p>それについては、東児童館の高野の方から。</p>
事務局(高野)	<p>グループというのは青少年健全育成東部地区委員会などの団体に参加していないとかということですか。</p>
新井職務代理	<p>そうです。</p>
事務局(高野)	<p>利用者の保護者の方ですとか、青少年健全育成東部地区委員会や子ども会に所属しているけれども、会としてはなくて個人として運営会議に出させていただいて、夏期クラブなどで一緒に何かを進めていく、というようにご参加をいただいております。</p>
新井職務代理	<p>ありがとうございます。食育で近くにいっぱい畑があったらいいですね。本当にそれはうらやましいなと思うのですけれど。</p>
橋本会長	<p>ほかに何かありますでしょうか。では岩重さん、先にどうぞ。</p>

岩重委員	岩重です。常設子育てひろばがあることで、利用者がとても多いと思うのですが、それが近隣の人とのつながりが強くあるということには、影響していますか。
事務局（木下）	ある程度、していると思います。私は4月から来たばかりですが、いろんな方と道路ですれ違くと立ち話ができ、例えばそういう意味では、ご理解をいただいたり、いろいろお気遣いをさせていただいているような、そういう繋がりができているように思います。
岩重委員	ありがとうございます。
橋本会長	次に、佐藤先生。
佐藤委員	3歳児グループの単独の受け入れというのが……単独とおっしゃいませんでしたか。3歳児の単独でというのは、親御さんなしでということですか。
事務局（高野）	2歳児グループと、3歳児グループがあるんですね。今まで2つのグループでやっていたのですが、どうしても3歳児のグループの年代が幼稚園に行ってしまうということで少なくなっていて、ほかの館は、2・3歳児合同のグループになっており、3歳児のみでのグループというのが、東児童館のみに残っている、という意味です。
佐藤委員	単独参加ということじゃないのですね。親御さんは来る。わかりました。それと、もうひとつ、今、新井委員がおっしゃった件で、確かにいろいろ畑はあると思うのですが、どのぐらいの農家さんが協力してくださっているんですか。
橋本会長	それからその農家が継続なのか、かなり入れ替えがあるのかも教えていただけますか。
事務局（木下）	私が知っている限りでも、竹をもらいに行った農家さん、ジャガイモ、それからサツマイモでお世話になっている農家さん。みなさん、小金井でずっと長年やっちらっしゃる農家さんで、長い期間、東児童館ではお世話になっています。
佐藤委員	東のほうにずっと広がっていますよね、畑が。
事務局（木下）	ジャガイモは踏切の近くの方です。是政線の線路の本当に近くのところですね。
橋本会長	東児童館との長いお付き合いがあるということですね。
事務局（木下）	そのように伺っています。
橋本会長	ほかに何かありませんか。山田さん。
山田委員	山田です。南小学校の子は児童館は、どこに行っているんだろうというのが気にはなっているんですけど、東児童館なんですか。南小学校には隣接する児童館はないですよ。
事務局（木下）	夏期クラブとか行事の時には来るんですけど、日ごろは余り利用していないのが現状だと思います。
山田委員	東町5丁目の子は、東中ですよ。だから、あのあたりのお子さんはどうか東児童館に歩いて行けるかなという感じです。二中学区の子は東児童館はちょっと厳しいと思いますね。

橋本会長	<p>だいたいそのような感じですね。それでは、そのほか何かありましたら。後でも、お時間が取れますので。次の貫井南ですね。貫井南児童館のご説明を山田先生からお願いします。</p>
事務局（山田）	<p>貫井南児童館の山田です。よろしくお願いいたします。貫井南児童館は、「この一年のあゆみ」の18ページに昨年度の報告が載っていきまして、事業計画は東児童館の報告の次になっていきまして、16ページを開けていただきたいのですけれど、よろしくお願いいたします。</p> <p>昨年度の報告と今年度の計画について照らし合わせながら、ご説明・ご報告をさせていただきますのでよろしくお願いいたします。</p> <p>貫井南児童館は、先ほどご質問がありましたけども、府中と国分寺との市境近くにある児童館でして、併設は学童保育ではなくて公民館です。貫井南センターということで、市民の方は認識していますので、どちらかというと、大人の出入りの多い児童館ですけれども、昨年度は、特に中学生の利用が増えました。</p> <p>前原小学校の6年生が25年度までとても来ていきまして、その子たちが中学に上がったことで26年度の中学生が増えたんですけれども、本年度はその子たちが中2になり、その下の中1の利用もとても増えています。児童館というと、中学生になるともう行かないという子もいるんですけれども、今はとても中1、中2の利用が多いので、割と中学生も抵抗なく利用しています。</p> <p>逆に、未就学児と保護者の利用は減っています。その一番の理由としては、幼児グループという、2歳児や3歳児の、幼稚園や保育園に行く前のお子さんと保護者の方を対象とした、毎週1回来るような活動があるんですが、その利用者が昨年度から減りました。一番大きな理由は、プレ幼稚園というのがありまして、今、3歳児から普通幼稚園に毎日通うんですけれども、その前に、2歳児の時点で週に1回～2回、その幼稚園に通うことをプレ幼稚園として、幼稚園がやっています、そこに通われるお子さんがとても増えてきているので、週に何回も外に出るのはとても大変ということで、幼児グループの利用が減っています。</p> <p>あとは、未就学児のほうで、0歳児の利用が去年は減っていましたが、今年に関しては、0歳児の利用がとても増えているので、今年に関しては大丈夫かなと思っています。</p> <p>では、1番「乳幼児と保護者に対する事業」です。</p> <p>未就学児の子育てひろばの利用が減少しました。それで、0歳児の方たちが来ると、なかなかその0歳児の親御さん同士が繋がらないので、職員のほうで、うまくつなげるような工夫をしたんですけれども、なかなか去年はうまくいっていませんでした。</p> <p>保育園に行かれる方も多いので、年に1回、保育園の看護師さんや栄養士さんに栄養相談会だの健康相談会で来ていただいているのですけれども、そのときもやはり、保育園のことを質問される保護者さんがとても増えている、という印象を受けます。</p>

子育てひろばの中で、有志の方ですけれども、小金井市立第四小学校の読み聞かせサークル「ことのは」というのがありまして、そこに毎月1回、そういった乳幼児の集いのときに読み聞かせを行ってもらっています。それに関連して、読書推進活動ということで、今年はずっと「ことのは」に幼児グループですとか、小学生の低学年のグループでも、読み聞かせの会をやっていただけることになりました。

幼児グループは、26年度と同じく、今年も減少傾向です。1つが25～26組程度で、1つはまだ10組程度しかいない。去年と同じように減っています。まだ引越して間もない方ですとか、下のお子さんがまだできて間もない保護者の方が来ることが多いので、こういうところで情報交換や子どもの友だちを作っておくと、幼稚園に行ったときに安心ということで、来ていただいている方は、それなりに充実した活動をしていらっしゃいます。

3歳児以上と保護者対象でお料理ということで、主に幼稚園世代ですけれども、幼稚園の年少から年長さんぐらいを対象としたお菓子づくりを主に行う「まんぷくぷく」と、工作遊びの「にこにこキッズ」という工作を去年は行いました。

どちらもとても盛況で、一般参加の自主企画で行っていますので、職員ではちょっと発想もつかないようなお料理とか、工作とかをやっていただいているので人気です。

今年は、「にこにこキッズ工作」のグループのほうは継続でやっていただいているのですが、「まんぷくぷく」のほうが一応去年限りということになったので、新しく「キッズクッキング」という名前で、昨年度の幼児グループのお母さんたちの自主活動でやっていただいています。

2番、小学生に対する事業です。小学生は、昨年度はとても低学年の利用が増えました。それまでは、どちらかという貫井南児童館は、小学生の高学年の利用が多い児童館だったのですけれども、その高学年の子が抜けたこともあるので、わりと1、2年生の利用が増えるようになりました。あとは、貫井南町では不審者騒動もあつたりしたので、親御さんのほうで、ここならば安心ということで、児童館にいらしてくださっているようです。25年度に、小学校6年生の子たちがよくダンスをしていて、そのまま「じどうかんフェスティバル」に出演したんですけれども、その影響で、その下の、昨年度5年生の子たちがダンスをしていました。ダンスといっても、今はやりのアイドルと組み合わせて、自分たちで振り付けを考えて踊るようなことなんですけれども、フェスティバルに向けて自分たちで考えて練習を続けることは、なかなか大人でも難しいことだと思うんですけれども、いつも、特に秋ぐらいは毎日のように練習に来ていました。

今年も「じどうかんフェスティバル」を10月31日に行うんですけれども、それに向けて、また今年はその子たちが6年生になってきたので、今少し案を練っているところでして、それにまた影響されて、低学年の子もダンスの企画を考えているような状況です。

中・高校生に対する夜間事業です。去年は大きいイベントが2つありました。1つは、バンド交流合宿で、もう1つは東児童館と一緒に参加しました青春祭です。

バンド交流合宿は、高校3年生の子たちが中心となってバンド交流合宿を、一昨年からはじめたのですが、そのときは多摩技術高校のバンドの子たちだけでした。去年は小金井北高の子たちも混ざって、そういう学校同士の交流もできましたし、2、3年生の子、縦の交流もできました。バンド合宿は、なかなか普段ほかのバンドがどんな演奏をしているのかとか、そういうことを見る機会がないので、演奏会も含めて、部活みたいな交流をやりました。

とても盛況で、このまま続けていってほしいと思ったので、今年5月の連休くらいに第3回のバンド交流合宿をやったんですが、その高校3年生の子たちが、大学生になって抜けてしまったので、主になってくれる子がいなかったの、今年については参加が少なく今後の課題になっています。

あと、青春祭ですが、貫井南児童館にはバンド室がありまして、普段は中・高校生に限って練習できるようになっていますので、その子たちが出演し、あわせてステージで高校3年生が弾き語りと手品の発表をしました。準備とかも大変だったんですけども、会議で何回も区内に行ったりして参加する中で、東児童館と同じように他地区の中・高生とも交流ができて、彼らにとっては、よい経験になったと思っています。また、3月にいつも児童館で縁日を、子どもたちが出展するお店をやるんですが、その高校3年生たちが、年明けぐらいから毎日こつこつ放課後に来て準備をして、超巨大迷路という、庭に一面段ボールを敷き詰めたような形での迷路を作り、とても好評でした。

あとは、中学生の利用がとても多かったんですけども、大体の子はグループで遊びに来る子が多いんですけど、その中でやはりこつこつと、一人で遊びに来て、職員にちょっと話を聞いてもらいたいのかなというような子も来ています。

そういう子と話をすることもすごく大事ですし、そういうことで、中学生の居場所として定着してきているかな、ということです。

今まで金曜日は、小学生の学年グループという事業があって、その後の時間に夜間開館を月2回やっていたので、中学生が放課後に早く児童館に来て居づらさを感じたのですが、今年からは中・高校生の居場所にしようということで、金曜日の低学年グループを火曜日にずらし、金曜日は中学生や高校生が早くから遊びに来ていい日、4時から中・高生の時間ということで、「プレ・スペヌク」ということをやっています。

今年の春先は、雨が多くて、部活が中止になってしまうことが多かったの、中1、中2の利用が多かったです。このままそういう子たちがこの時間を基盤として、ボランティアや自分たちが企画した行事などで頑張ってくれることを期待しています。

4番です。貫井南児童館は、公民館と一緒にの施設ですので、やはり公民

	<p>館のサークルとかそういった高齢者の老人会とかの連携を、児童館の利用者懇談会などでも強く期待されているところなので、そういったことを大事にして、年に何回か老人会の方とも調整しながら、小学生向けの行事、また避難訓練なんかも一緒に行っています。そういった施設のメリットを活かして、今後活動していきたいと思っております。</p>
橋本会長	<p>どうもありがとうございました。皆様のほうでご質問、何かあります方は。</p> <p>委員の皆様もお気付きのように、貫井南は施設の上でも、現状の上でも、中学生、高校生に特に利用に力を入れているわけでありましてけれども、私がお伺いしたいのは、高校生の活動はずいぶんダイナミックに展開されていて、高校生のためにいいことが多いと思うのですが、高校はあちこちに散っているわけなので、中学校、小学校にお願いするというわけにいかないんですが、広報はどうやってらっしゃるのですか。</p> <p>特に広報ということはできなくて、口コミが中心になるという感じでしょうか。高校生の場合。</p>
事務局（森）	<p>今、広報の話が出たことで、一応、児童館の事業についてどういう広報をしているかというのを、全体的にご説明させていただいたほうがいいかと思えます。</p>
橋本会長	<p>分かりました。</p>
事務局（森）	<p>小金井市報は毎月5日号と15日号がありますが、15日号に児童館のコーナーとして掲載しています。</p> <p>それから、今、どこの市町村でもホームページがあると思いますが、小金井市でもホームページがあるので、乳幼児の、つまり子育てひろばの案内と、小学生以上を対象とした事業のコーナー、それから、中・高校生世代のための事業のコーナーと、幾つかに分けて広報しています。</p> <p>市内の小中学校には、全て児童館たよりを配っています。ただ、1つの小学校に4つの児童館分全部を配っているわけではなくて、近隣の、よく子どもが遊びに来る、よく行事に利用する小学校に配っています。南小学校は、先ほど東児童館の範囲から遠いということだったのですけれども、今のところ、南小学校には、貫井南児童館のたよりを配付しています。さらに東児童館からは、先ほど東町5丁目というお話がありましたが、東町5丁目の子ども会に回覧という形で配らせていただいています。中学校のほうにも、東中に関しては東児童館とか、第一中学校には本町児童館みたいな形で、近くの児童館が配っています。子どもたち一人一人の手に渡るので、一番確かな方法だと思います。</p> <p>あとはポスターの掲示を、中・高校生であれば、彼らが集まるような施設、例えば、音楽スタジオのある公民館の貫井北町分館とか、そういう所にも配らせてもらったり、幼稚園児が一番、広報が伝わりにくい世代ではあるので、例えば、東児童館の幼稚園対象事業については、近隣の幼稚園にチラシを配らせていただいている、などです。</p> <p>定例的にやっていることと、事業によってその都度行っていることと2</p>

	種類あるということで、よろしくお願いいたします。
橋本会長	<p>想像した以上に高校生にも情報が行き渡っているようだという感じですね。そういうふうに感じました。ありがとうございます。</p> <p>皆様、ほかにご質問はいかがですか……。よろしいですか。なければ時間がもったいないので。</p> <p>ボランティアのことで、支援する側ですね。前期からこの委員会で、審議会で話題になっているのは、ボランティアのなり手がだんだん減ってきたということで、小・中のお母さんについては、減ってくるのは分かるのですが、高校生の事業の場合、随分と展開がいろんな複雑なこととか、下準備があるようですけども、ボランティアは小・中のお母さんとは違う方が担っているのですか。それとも同じような傾向ですか。ボランティアになってくれる方というのは。貫井南の場合。ちょっと質問のピントが合っていないかもしれませんが。</p> <p>ああ、高校生の事業、高校生自身がもう自分でやっていくから、ボランティアというのは、いらないのですね。児童館を支援してくださる人たちに、どういう人たちが貫井南の場合は特に必要なのかなと、ちょっと心配になったんですけれども。担い手は減ってないのかな、とか。</p> <p>ボランティアとか担い手というのは大きな問題ですので、後で質問をしていただいてもいいかなと思います。</p> <p>何かありますでしょうか。よろしいですか。では、また後でも結構ですので、お願いします。それでは、最後になりましたが、緑児童館のご説明を森先生からお願いいたします。</p>
事務局（森）	<p>すみません、会長。一つ、ご説明を追加させていただきたいことがあります。先ほどから、東児童館と貫井南児童館の職員から、青春祭という言葉が出ていると思います。これは一体何だというふうに思われている方がいらっしゃるのではないかと思いますので、これについて追加でご説明をさせていただきます。</p> <p>「この一年のあゆみ」、平成26年度の41ページをご覧くださいませでしょうか。青春祭というのは、事業の中の、さらにその中にある事業なので、なかなか大きく青春祭という言葉が報告書にも、事業計画にも出てこないものですから、説明を加えたほうが良いと判断させていただきました。</p> <p>一昨年2月に杉並区の中・高校生センター、「ゆう杉並」の職員から、貫井南児童館と東児童館に案内が来ました。内容は、杉並区の中・高校生が近隣の他区市、または他県の中・高校生と交流したいということで、「首都圏中・高校生プロジェクト」というのを立ち上げたので、小金井市も参加しないかという誘いでした。</p> <p>それについて、参加したいという意向があったのですが、なかなか他の事業の関係で職員と児童館で活動している中・高校生世代が、一緒に参加するというのがなかなかできなかったのですが、平成26年の11月ぐらいに、話がちょっと変わって、杉並区が主催するその中・高校生プロジェクトが、ここの41ページの表題にあるのですが、「第14回全国児童</p>



	<p>館・児童クラブ大会TOKYO」に、まるごと参加するので、いっしょにどうですか、というような、新しい案内をいただきました。</p> <p>このイベントは、全国児童健全育成推進財団が主催した事業です。で、その中の一部分を杉並区が立ち上げた首都圏中・高校生プロジェクトが担当するというので、その担当する事業名が「青春祭～笑顔がつながるTeenager～」となっています。全国的な児童館の大きな行事の中で、都内の中・高校生が担当する活動という形でした。</p> <p>こうして新たに参加しないかという呼びかけをいただいたので、先ほど説明があったように、貫井南児童館と東児童館の夜間開館に参加している中・高校生が参加したということです。</p> <p><b>本来</b>、全国児童健全育成推進財団の、全国にある児童館や児童センターの職員の研修大会の中で、<b>中・高校生がステージでライブ演奏したり、ゲームコーナーを設けたりしたイベントが「青春祭」</b>です。詳細は「この一年のあゆみ」の説明をちょっと読んでいただければ分かるかと思います。よろしく願いいたします。</p>
新井職務代理	これは継続する話ですか。また27年とか28年もあるのですか。
事務局（森）	「全国児童館・児童クラブ大会TOKYO」というのは、これ自体は今年度もあるかどうか分からないのですが、杉並区主催のこのプロジェクトに関しては、杉並区のほうは、同じような形で他の区市町村の中・高校生と今後も交流したいという意向はあるみたいです。ただ、新たな事業については未定です。だから、今回は青山子どもの城で行ったのですが、子どもの城がなくなったというのもありますので、それについては未定で、小金井市としても、それに参加するについては、単年度の事業だった、というふうにご理解いただければと思います。
新井職務代理	分かりました。
橋本会長	分かりました。では、元に戻りまして、緑児童館の説明をお願いいたします。
事務局（森）	<p>先ほど市長のほうから児童館が来年創立50周年という話がありましたが、緑児童館の場合は昭和62年、児童館4つの中の最後に建てられた児童館で、29年目になります。</p> <p>区域的には緑という名前があるとおり、緑小学校と第三小学校の子どもたちが遊びに来る施設というふうにお考えいただければと思います。ただ、位置的に緑小学校と緑中学校のちょうど真ん中にあるので、やはり遊びに来る子の8割は緑小学校の児童で、第三小学校の子どもたちは遠いということと、学校の終了時間の関係もあるので、自力で遊びに来る子はやはり5年生、6年生で、人数も非常に少ないです。土曜日に行事をするのに関しては、第三小学校の子どもたちの参加が増えています。</p> <p>イメージ的には緑小学校の施設というふうにいる子どもたちも多いのではないかと、思います。</p> <p>ほかの児童館と同じように、いろいろな事業があります。一つ一つ説明していると時間がかかりますので、緑児童館の事業イメージというか、運</p>

営のイメージをご説明いたします。先ほどの「児童館運営基本方針」にもあります、「子どもの健全な育成を願う地域の人たちをつないだ地域の子育て、子育て、健全育成の拠点」というイメージを事業化するというを常に心がけながら、この28年間事業を行ってきました。簡単に言えば、ありとあらゆることに関して、地域に子どもたちが存在するならば、地域の大人の人たちも存在するのだから、子どもたちの育ちに大人も一緒にかかわっていこう、というイメージで、あらゆる事業に地域の大人の人たちに参加してもらうように事業の形を作っています。

例えば、乳幼児と保護者の事業に関しては、いろいろな講習会を行うときの保育あるいはその講習会の講師または指導にあたるボランティア、小学生で言えば、いろいろな工作とか食育とか、そういうことに関する行事の指導のボランティアに、地域の保護者やそのグループが担っています。

他の児童館が東京都とか、あるいは全国的な所での機関に講師を頼んだり、専門的な人たちを招いている傍らで、常に地域の人たちの腕のある人たちや、あるいはそういったことにかかわりたいと望んでいる方たちの協力を得ながらやってきています。ですから、地域の実情というか、実態がそのまま児童館の運営に影響してくるというのは、大きいと思います。

近ごろでは、例えば、地域のお母さんたちが就労することが増えているので、日常的に時間を取っていただけるような方たちが減ってきたということもあります。

また、緑小・三小地区は、お母さんたちがすごく一生懸命やられていると思います。例えば、学校のPTAは様々な事業を行っています。また緑小学校では、放課後子ども教室の活動が盛んです。いろんな所で地域の大人の人たちが活躍しているので、逆に今度はそういう人たちとうまく連携しながら、行事の日にちが重ならないようにするとか、あるいはここでやっている人たちに児童館に来てもらうとか、そういう連携が今後は必要だと思います。

何でもかんでも児童館でお願い、ということにはならないので、地域で頑張っている人たちといかに協力をし合っていくか、連携し合えるかということが今後の課題です。

第三小学校のほうは児童数が増えているようですが、緑小学校はどちらかというところ減少傾向にあるようです。その割には、25年度と、26年度を比較すると、小学生のほぼ全ての学年で利用者数は増えています。その中で何となく地域の子どもたちよりも、大人の児童館に対する考え方や思いが、ちょっと変わってきているのではないかと考えます。

その理由としては、遊びに来る子はすごく多いけれども、行事に参加する子やグループ活動に申し込む子が減ってきていることと、同時に遊びにくるだけの子と、行事やグループ活動に参加する子に分かれてしまっています。7月、夏休みに入ると5日間の夏期クラブという行事がありますが、ほぼ毎日、学校が終わってから「常連」と言われているぐらい遊びにくる子どもたちは、今年度の夏期クラブに参加していないんですね。夏期クラ

	<p>ブというのは、児童館の中で児童館全部を使ってやる行事なので、夏休みに入ったときに、普段遊びに来る子たちの居場所がなくなってしまうというのが懸念されるので、児童館事業が非常に矛盾してしまうことになる。そのところが今後の課題になっているかなと思います。</p> <p>何か気になる事業がありましたら、ご質問いただければと思います。今後も地域の人たちを協力しながら児童館の運営をしていきたいと思っています。ありがとうございました。よろしく願いいたします。</p>
橋本会長	<p>緑だけではなくて、4館全体にかかわることもたくさんあると思いますが、緑は地域との連携を強くやって来られたということがありまして、ただ今のような説明をいただいたんだと思います。緑児童館の事業について、ご意見、ご質問はありますか。よろしいですか。はい、新井さん。</p>
新井職務代理	<p>今、森先生がおっしゃった最後のところですが、すごく気になるんですけど。</p> <p>普段来る子どもが、夏休みになると事業に来ないというのは何でなんだろうなど。なぜ、そういう子どもが……というのが、何か引っかかるんですよね。何か推測できる理由があるんですか。</p>
事務局（森）	<p>一つ言えることは、0歳や1歳の子どもと保護者が遊びにくるようになって久しいですが、10年位前までは、児童館に来るのは2歳3歳児になっての幼児グループからでした。緑児童館で言えば、多い時で2歳児グループだけで100組くらいの参加者がいました。ですが、今はその半分くらいになっています。</p> <p>幼児グループで保護者同士の係わり合いを持った人たちは、その後も児童館で知り合った人たちと関係が続けていく中で、子どもが小学校に上がったなら児童館がある、ということのを常に意識してくれています。中には児童館でボランティアをする仲間同士になっている人たちも多くいました。</p> <p>ですが、当時は幼児グループに2年間参加した人の方が多くいましたが、今は幼稚園に3年間通う家庭が増えたので、ほとんどの人が1年間の参加です。ですから、幼稚園の間は児童館が疎遠になってしまう人も多いため、お母さん方の意識として児童館は薄いのではと思います。児童館の行事への申込みはほとんどが保護者の意志な訳ですから。</p> <p>良く遊びに来る子は行事にも参加していましたが、最近の遊びに来る子どもたちは、子どもたちの中で「今日、児童館行こうぜ」とか、誰かが行くから行くとか、そういう理由でどンドン来るんですけど、保護者も児童館は遊びに行くところ、くらいにしか思っていない人が増えている。だから、遊びに来ている子どもが増えていても、忙しいこともありますが、保護者が児童館に行くという意識も薄くなって来たので、児童館職員が関係性を作りづらくなってきています。</p> <p>繰り返しますが、行事参加とかグループ活動に参加というのは、保護者の希望が大きいので、低学年の活動が多くて、高学年になればなるほど行事やグループ活動への参加が減るのは児童館共通することです。今は低学年であっても、保護者の意識の中に、児童館の行事やグループ活動に参加</p>

	させたい、ということが薄くなり、反面、児童館に遊びに行ってくれているので安心、という人が増えてきています。
新井職務代理	<p>新井ですけど、うちの孫を見ていても分かるんですね。遊びに行くのは遊びに行く。だけど、何か行事をやるのは面倒くさい。そんな感じがあるんですかね。</p> <p>皆で何か一つの決まったことをやるみたいなものは、面倒くせえ、というような感じで。でも、遊ぶのは好きです。そんな気質なんですかね、今の子どもたちは。</p>
中川委員	中川です。お子さんだけでなく、親もそうだと思います。親もやっぱり面倒くさいなと思って参加されない方も多いと思うんですよね。
新井職務代理	何か自分たちに役が回ってくるみたいなことをやるのでは、ちょっとそこに行くのはいいや、今日はちょっとこっちのほう忙しいからって……そんな感じ。
中川委員	そうだと思います。やっぱりお子さんが行きたくても、親のほうで「ちょっと忙しいから無理」という親御さんもいる。
橋本会長	山田さん……岩重さん、どうですか。
岩重委員	<p>うちは、真ん中の子は、学童保育には行かせないで、下の子は学童保育に行っています。真ん中の子は児童館行事にたくさん参加させていただきました。</p> <p>学童の親というのは、4年生になったら預け先がなくなってしまうので、児童館に遊びに行きなさいというような形を取る人が多くて、子どもたちも毎日児童館に行くと思うんですけれども、何というんでしょう……その親は参加をしないことが多くて。</p> <p>それでもやはり、学童に預けている親っていうのは、すごく子育てに熱心な方が多いので、本当にたくさんの行事をこなして、いろいろなことをしてくださる方が多いので、そういう人を巻き込んで何かをできないかというのがあると思います。行事には特に手が必要だと思うので、そういう何か、工夫をしていけるといいのかなと思います。</p>
新井職務代理	学童のお母さんたちは、本当にいろいろなことに参加されて、子どもたちのために何かやろうって動いてらっしゃるといのは聞いているんですね。
岩重委員	特にお父さんがすごいので、おやじの会を作ったり、いろんなことをしていて、今でも児童館と一緒にいろんな活動をされている方も中にはいると思うんですけれども、そういう力をもっと活用していけないのかなと思います。
橋本会長	ありがとうございます。山田さん、何かありませんか。
山田委員	最近、うちは子ども会に行っていますが、子ども会も参加率が悪いので、そういうのもありつつ、みんながちょっと、となっているんじゃないですかね。
橋本委員	分かりました。吉田さん、何か有りますか。
吉田委員	先ほど森先生がおっしゃったように、幼児グループから関わっている親

	<p>は、恐らく全児童館のたよりを小・中学校に配っていただいているので、たよりは見ます。それはやっぱり関わってきましたし。</p> <p>それと、幼児グループの活動は楽かという、そうではないです。子どもも関わるけど、親も親同士で関わらなければいけないので、親同士もストレスを感じながら、でも、そういう場にも行き、子どもも同世代と関わらせたい、という気持ちで行くので、そういうのを乗り越えてくると、やはり児童館はずっと気になっている、私はその一人です。</p> <p>ですから、子どもがチラシを持ってくると、ありがたいことにたよりは全部ふりがなを振っていただいているんです。児童館だよりは全部ふりがなをふっていただいている、昨日も子どもがそれを見て、「お母さん、この行事に行きたいんだけど、申し込んで」というふうに言ってくれる。そのために、恐らく全部ふりがなを振っていただいている。私は緑児童館のものしか見ることはないですけども。</p> <p>子どもたちも言ってきますし、比較的私がたよりを気にしていたので、私は面倒くさかろうが、行事は申し込んで行きます。やっぱり、私たちは幼児グループから関わっていて、夏期クラブも関わると親の方は何かがあるかもしれないけれど、それはそれで関わっていきたいと思っていますし、お返しをしたいという気持ちもあって関わってきました。</p> <p>市内の公立小中学校では、震度5弱の地震があったら引き取りに行くというのが大前提ですが、児童館のたよりで予定がわかると、うちの子がどこにいるというのが明らかですし、今日は児童館に行くよとか、そういうことがきちんと分かる。そういう意味でも、普段の夕方の子どもの居場所として、非常に児童館はありがたいので。だから、広報活動はご苦労とは思いますが、広報していただくと、非常にありがたいと思っています。</p> <p>それとすみません、もう一つです。今、中・高校生に児童館が力を向けていただいている部分があるんですけど、その中・高校生について、ずっとその児童館にかかわってきた中・高校生がその児童館を利用しているのか、もしくは全く児童館を利用していない子が、中・高校生がいきなり中・高校生になって、児童館というところを利用してきているのか、それを聞きたいと思うんですけど。</p>
橋本会長	森先生、どうですか。
事務局（森）	<p>それについては、どちらもあるのではないかと思います。</p> <p>利用の中心になっているのは、恐らく小学校時代からかかわってきた子どもたちです。それは東児童館や貫井南児童館の夜間開館でも同じですし、ほかの児童館で来てくれるボランティアの子たちも同じだと思います。緑児童館でも、夏期クラブのボランティアにたくさんの中・高生が参加することに今年もまたなりましたが、いつも来てくれる子たちに連れられて、初参加の中学生が混じっています。</p> <p>必ずしも最初から児童館がずっと好きだから来てくれるっていう子だけではなく、仲間に誘われて、仲間を作り、結果児童館に友達が来ているか</p>

	ら、という理由が大きいと思います。
橋本会長	中・高生の利用が特に多い山田先生の所はどうですか。どんな感じですか。
事務局（山田）	やはり森主査が言われたように、本当に小学校のうちから来ていた子もいますし、貫井南児童館はバンド室もあったりするので、それをきっかけで来るようになった子もいます。
吉田委員	誰かに連れてこられるというのがたぶん、中・高生でいきなり児童館って書いてある所に足を踏み入れるというのは、なかなか……。学校では児童ではなくて生徒ですし、そういう意味では厳しいのかなと思っていたんですけど、やっぱり誰かに連れられてというのは、かかわってきた子が中心となってということなので、そういう意味では幼児グループとか小学生の時に何らかの形で児童館とかかかわると、踏み入れやすいだろうなと思います。そうすると、中・高ももちろん力を入れるんですけど、やっぱり小学生のことに関して努力していくことは、私たちも、地域の者としては、次につながるのではないかと思います。
橋本会長	同感です。次につながると思います。ありがとうございます。
中川委員	うちの息子もそうですけど、一中のときにボランティアカードというのがあって、ボランティアをするとスタンプをもらえるということで、それがきっかけで始める子とかもいると思うんです。
橋本会長	どうでしょう。どなたでも。ボランティアカードがきっかけで増えた。
事務局（森）	確かに「こきんちゃんカード」という、学校で配付しているボランティアカードの影響はそれなりにあると思います。結構あれを持ってきて、はんこを押してくれという中学生は多いですね。
橋本会長	<p>ありがとうございました。まだあるかもしれませんが、もう一つ議題があったと思いますので、緑児童館への質問はここまでにさせていただきます。</p> <p>議題の2つ目は、基本、この審議会の運営の今後の進め方ですけども、それについて、年に3回しかない会議ですね。それで、任期の間に6回、会議があるわけですが、その間も、次回は10月になるということで、その次は大体2月とか、そういうぐらいの時期ですかね。</p> <p>こういうふうにはぼつぼつとあるので、私たちとしては、意識を切らさないのがとても難しいです。委員としての活動が時々です。</p> <p>それで、大事な質問というのはお互いに共有しておいて、前もこういう質問あったよねというようなところからスムーズに始めたいと思います。</p> <p>問題としては、これは補足があったらお願いしたいのですが、去年からずっといろいろ言われてきたのが、さっきも言いましたように、ボランティアのなり手が少なくなっている。就労する女性も増えてきているということで、そういうことがあるとされている。</p> <p>それから、ある年代になって幼児の利用が減るときがある。これも利用者だけ、頭数だけが問題というわけではないですけども、その傾向があるということ。</p> <p>それから、とてもいいことをやっている児童館だと思うわけですが、利</p>

	<p>用したい人のニーズに確実に応えているのかということが、いつも審議会でも堂々巡りの議論になります。</p> <p>それから、今日の資料にあまりなかったのですが、最後のページ、お金のところで、児童館の運営委託料というところがありますように、児童館のうちの1館、東児童館を今、委託ということで運営いただいています。これは、何年か前の審議会で答申を出したとき、民間に委託するということが始まりました。この取組みを評価して、2館目に進むのかどうなのかということが、市のほうで舵取りをしていただくわけですが、この民間委託による運営がうまくいっているのか、財政的な効果もあったのか。それから、委託の狙いは成功しているのか。1館目については、うまくいったという評価をこの審議会では過去にしているのではないかと思います。2館目は大丈夫か、とか、われわれ審議会としても、いろいろ考えておくべきことがあるであろうと思います。</p> <p>そのほか、何か皆さんのほうでお気づきになったこと、こんなことも問題になるのじゃないかということは、たくさんあると思うんですけど、思いついたことがあればご指摘いただきたいと思います。</p>
新井職務代理	<p>よろしいですか。児童館の利用者懇談会を各館でやっていらっしゃるって伺っているんですけども、例えば、その利用者懇談会の中で、どんな話が出ているかというのも、われわれもメモでもいいので見せていただけないか、この審議会の議題の中のネタにもなるのかなと思うんですが、いかがでしょうか。</p>
橋本会長	<p>利用者懇談会については、私も各児童館に利用者懇談会があるということで、各児童館の細かい事業については、そこでかなりやりとりがあるということを知っています。</p> <p>逆に同じような内容を審議会の場で議論しなくてもいい、ということ事務局とは話してきていますが、今、職務代理がおっしゃったのは、各館の利用者懇談会の状況が分かればいいと、いうことがありますので、これをどのような形でこの説明資料に入れていただくか、今後ご検討をいただくということでよろしいでしょうか。する、しないも含めてご検討いただければありがたいと思います。</p>
新井職務代理	<p>中身を討議する必要はないと思います。ただ、利用者の方がどんなふうに思って、児童館を見ているのかというのは、大きい所から見たいという気はするんです。</p>
布目委員	<p>そのことに関連して。東児童館の利用者懇談会に出られた方から、ちょっとお話をさせていただいたのですが、今、この「一年のあゆみ」を拝見して見ましたら、緑児童館では、PTAとか放課後子ども教室の行事と、なるべく児童館の行事が重ならないような工夫をしているという一文が入っていたんです。</p> <p>東児童館の利用者の方の中には、学校行事と児童館の行事がバッティングしてしまうと、子どもは、学校行事が優先になってしまうので、児童館行事に出たいのに、というのがあって、児童館が学校行事をどの程度把握</p>

	<p>していらっしゃるだろうか。放課後子ども教室は、生涯学習課のほうとの絡みがあって調整したいということで、結構放課後子ども教室が、普段はいいんですけども、私がかかわっているのが、土曜日にやっているものですから、やはり土曜日が月4回しかない、その中で行事が使うと、子どもさんは、あっちも出たい、こっちも出たいということで、その辺、話し合いがどこかで一度持てるといいのかなとか、学校行事がどの土曜日に入っているかというのを児童館の方で把握されているのかどうかというのを伺いたいというお話をしてらっしゃいましたので、その辺の学校行事と児童館行事の絡みと、放課後子ども教室と児童館の行事の絡みとか、その辺の日程調整について、どこかで一度、年初にいただければ、学校の行事は決まっていますので、例えばそういうところがあれば、調節、調整できるのかなということを感じました。</p>
橋本会長	<p>今日は、ご回答いただくのは時間のかかることだと思いますので、今、布目委員が言ってくださった各施設との連携というのはとても大事な問題なので、私が申し上げたことの補足として、問題に付け加えていただきたい。</p> <p>それから、委員の皆様の今日のご発言の中で大きな問題があったのは、最後に吉田さんが言われたように、大人が参加するときハードルがある。子どものために参加させてやりたいんだけど、ハードルがあるという、それをどう乗り越えてもらうかというのも問題ですし、岩重さんがご提案くださったように、学童保育なり、子ども会なり……岩重さんも子ども会にかかわっておられると思いますが、そういうところで経験を持っている人たちをどのようにつなげていくかということ。</p> <p>いろいろなところとの連携ということで、布目さんもおっしゃってくださったような、運営側の連携もありますが、利用者、サポートする側の連携も、私たちがお手伝いをして、何とかうまくいいアイデアを出せたら、審議会の値打ちも上がるかなというふうに思います。あと何か、1つ2つあれば。はい、布目さん、どうぞ。</p>
布目委員	<p>支援の必要な子どもたちが多いというのですけれども、ちらっと聞いたのは、児童館側から申請をできるという話を小耳に挟んだんです。ボランティアというか支援金を……。児童館に絡んでというのを。</p>
橋本会長	<p>支援を要する子どもたちを助けるための支援金が出るとか、そういうことですか。違うかもしれませんが、即答出来るなら即答で、また今度ということだったらまた今度ということで。</p> <p>今のお金が出る、出ないは別にして、とにかく支援をする人は必要なわけなので、それはわれわれの審議会の議題になじみますが、そういう制度があるかどうかだけ、イエス・ノーで答えてあげてください。</p>
事務局(田中)	<p>サポートの必要な子たちに対して、児童館の予算として、そのための人件費などがあるかどうかというご質問であれば、そういった経費はないというお答えになります。</p>
新井職務代理	<p>ただ、そういうお子さんがいたならば、そういうところの、行ってみた</p>



	<p>らどうかとか、支援のところに行ってみたらどうかとか、そういうふうなアドバイスは、難しいけどできるということじゃないですか。</p> <p>そういうことをお母さんに直接言うかどうかという問題は、いろいろありますけれども、支援する所を紹介することはできるんじゃないですか。</p>
事務局（田中）	<p>利用者からご相談があったり、もしくは何らかの信頼関係があれば、その中でこういった施設があります、ということでご紹介するとか、そういったお話というのは、そもそも通常業務の中に入っているんです。</p> <p>ただ個別に、通常の職員以外の者を雇用するとか、そういった特別な手当があるか、と言われると、そもそもそういう支援のみを主な目的で行っている施設ではないので、児童館の予算の中にはない、という答えになってしまう、ということです。</p>
橋本会長	<p>分かりました。今後ずっと関心を出し続けて、お金だけではない……責任問題とかいろいろあると思いますので、それも含めて研究する姿勢を持って議論いただければと思います。</p> <p>進め方としては、そういうことでご了承いただきたいと思いますので、なるべく集中的にお話をできればと思っております。</p> <p>また、日程や資料など、今までのように事務局から送付されますので、よろしく願いいたします。</p> <p>何かその他について、事務局のほうから発言しておくことはありますでしょうか。</p>
佐久間部長	<p>委員のほうから、それぞれ資料の要求がございました。</p> <p>私は資料の要求と考えているんですけれども、次回のときにお示しできるような状況にするために、会長と職務代理ともお話をさせていただいて、いったん整理をして、どういったものを審議するか、あるいは議題にするのかということは、事務局と調整をさせていただきたいと思っておりますので、そのように委員の方々にはご了承いただきたいと思っております。よろしく願いいたします。</p>
橋本会長	<p>10月まで長い時間が空いてますがけど、こういうこともあるんじゃないか、ああいうこともあるんじゃないかということは、私や職務代理や事務局のほうに言っていたり、資料はないのかということ言っていたら、また私たち、今、部長がおっしゃったように検討できますので、10月まで関心を切らさずにご参加いただきたいと思っております。</p> <p>特になければ、長時間にわたってご協力ありがとうございました。</p>